

## 豊岡市での出張観察会と生物調査 ～豊岡盆地周辺の魚類～

北垣和也（豊岡市立コウノトリ文化館・NPO 法人コウノトリ市民研究所）

### はじめに

豊岡市立コウノトリ文化館・NPO 法人コウノトリ市民研究所は、日本では一度野生絶滅したコウノトリが再び暮らせる環境を取り戻そうと、様々な取り組みをしている。その中で、豊岡市内各地区からの依頼を受けて開く出張観察会「出張田んぼの学校」に出向いている。自分たちが暮らす身近な場所にどんな生き物が住んでいるのか、コウノトリも含め、多くの生物が生息している豊岡の自然環境を見つめ直すきっかけになればと、2009年から続けている。

また、メンバーが各自で、鳥類、昆虫、植物など、それぞれの専門分野の調査も行っている。出張田んぼの学校の他にも、他のNPO 団体や学校、国交省などと協力して開く観察会等にも講師として参加しておりそれらで得られたデータも生息情報として記録している。今回はその中で、豊岡盆地周辺で生息が確認できた魚類について紹介する。



### 方法

1. 「出張田んぼの学校」は例年5月～10月頃、豊岡市内の要望があった地域に出向いて行っている。申し込みは豊岡市役所コウノトリ共生課が窓口になっており、主に子ども会や、地域の農水環境、公民館などの行事として行われている。内容は、主に集落周辺の小川やビオトープなどでの生き物調査。参加者各々が採集した後、生き物についての説明をする。また、このときの採集記録は豊岡盆地での生物の分布情報として蓄積している。



2. 魚類調査は、豊岡盆地を中心とした円山川流域などで調査を行っている。主に身近な水路、農業用水路、小川など。円山川本流でも採集を行っている。円山川流域には漁業権が設定されており、調査にあたっては円山川漁業協同組合さんから許可を頂いている。方法はたも網がメインで、投網、釣り、もんどりなどの方法。他の団体と行う際には定置網を使用することもある。



### 結果と考察

1. 出張田んぼの学校は、2016年度では21地区において行った。うち、水路・小川が11箇所。ビオトープが11箇所であった。昨年に続いて行ったのは17地区で、来年もしたいという地区も多く、着実に広まりつつあると考えられる。
2. 出張田んぼの学校の記録も含め、豊岡盆地周辺（円山川・気比川・田結川流域）で生息が確認できた魚類は77種であった。豊岡盆地の中心を流れる円山川は、河口から15km上流まで潮汐の影響を受け、汽水域が長い。そのため、淡水魚の他、汽水魚や海水魚の生息も確認できた。

コウノトリ文化館・コウノトリ市民研究所は、自分たちの地域に、このような多様な種が生息している環境があるという事を、広く地域住民に知ってもらえることを目指して活動している。